1. "災害" "事故" 寸感
2. 予算編成にメルクマールを
3. 親切な道路標識のこと

マンスリートピックス

1. 「史上最高」とか「史上始めて」というできごとが頻繁に聞かれるこのごろであるが，いざ蓋を開けてみると暗いニュースの余りにも多いのに驚く。人間の幸福を願って行なわれる物質文明の開発が，かえって人間生活の悲劇を大きくし，あるいは新しい悲劇を生んでいるように思える。これは，あたかも，医者が患者の処方を誤まり，次から次へと余病を併発して行くようなものである。土木技術は良く医術にたとえられる。大自然に手を加え，より良い人間社会を形成するための基盤づくりをしているためであろう。とすれば，われわれ土木技術者にも責任の一端があるように思える。しかし，「……に対処するため」という跡始末的な工事が大半を占め，大きなビジョンに基づく先行投資的な開発工事がきわめて少ない現時点で，土木技術者に責任の一端を負えというのは少し酷かも知れない。といって，これを政治の貧困と決めつけるわけにも行かないであろう。われわれ土木技術者が大いなるビジョンを持ち，これを政策に反映できるような自信と努力が必要であろう。 [C]

2. 昭和 44 年度の国家予算原案が決まり，公表されたが，それによると 6 兆 7 400 億円で，43 年度予算の 16%増である。われわれ土木屋に関係の深い一般公共事業費は 1 兆 900 億円で，一般会計予算の 16%を占めている。

近年の国家予算規模は，わが国の経済発展にともなって，年々拡大の一途をたどっているが，この大きな予算金額を聞くたびに，朝鮮戦争直後ごろのわが国の予算規模を思い出す。当時の新聞の見出しには，"一兆円の大型予算" といった派手な表現があった。そして 1 兆円という単位が，われわれ国民にとって一つのメルクマールであったような気がする。それを思うと，この 14～5 年の間に日本経済がいかに発展してきたかがよくわかる。このように経済が発展し，大型予算になってきたにもかかわらず，その予算編成に対してわれわれは一様に欲求不満を感ずる。それは予算編成に当って国家的思想がないことである。

われわれは，第二次大戦に敗れてから，なりふりかまわず，とにかく，食を，住を，と一生懸命働らきこのため外国から，首相がトランジスターラジオトレイダーと呼ばれたり「日本人はエコノミックアニマルだ」などといわれても，経済的復興にまい進し，そして現在では，曲がりなりにもやっと一人前の姿になった状態である。こうして最近では，○○ビジョン，○○プロジェクトと称する未来への計画がぼつぼつ発表されるようになり，"とにかく人間なみの生活を" という今までの生活態度から一歩外へ出た議論がなされるようになった。ここで，これからの国家予算を編成するに当って，われわれは一つの国民目標に向かって，"こう動いてゆくんだ" という方向ずけが必要であり，それが，予算から汲み取れるようにすべきであると思う。すなわち，われわれはもはや経済発展だけではない，新しいメルクマールを欲しているのである。 [J]

3. 先日中国地方の国道を車で走った。道路標識で感じのよかったことが二つあった。

一つは横断歩道橋にかかっている方向および距離の標識が非常に見やすく大きく感じたことである。考えてみると，大きさは同じだがローマ字が省略されているせいである。標識は直観的にわかることが望ましいのに，ローマ字があるために漢字の象形的特徴を把めないうちに通過することがままある。漢字とローマ字を両立させて目的を果たさせるにはかなりの大きい標識板となる。通行者は日本人が多いのだから，外人用に必要なら別にローマ字だけの標識を設置すればよいと思う。もう一つは，国道番号標識のポールに字名まで入れた地名が書いてあった。

最近市町村が合併して大きくなり，どこを走っているかわからない場合が多い。広告も制限され，案内標識代りになるのはバス停ぐらいだけに親切なことだと思った。夜でも地名が明瞭にわかるようになればなおよいと思われる。とかく知っている所を走るときは標識はいらないが，未知の土地では標識がたよりだ。以上のことは皆が感じていることかも知れないが，思いつきとしないで，道路管理者が管内全部に実行した勇気は立派なことだ。土木技術者として大きい夢もよいが，日常感じていることでわれわれの力でできるものは，ささいなことでも実行したいものだ。 [S]